

# MRI 造影検査説明書

(患者様用)

## 造影検査の目的と方法

【目的】：内臓や血管、病変などの状態を造影剤を使用し、より詳しく検査します。

【方法】：造影剤(ガドリニウム製剤)を入れる血管(腕の静脈に点滴します)を確保します。検査の途中で造影剤を点滴より入れて撮影します。造影後 30 分間は様子を観察し、変わりがなければ針を抜いて終了します。

## 造影剤の副作用

MRI の造影剤は比較的安全な薬剤ですが、まれに副作用が起こる事があります。

【軽い副作用】：頭痛、吐き気、嘔吐、じんましん、手足やからだの灼熱感、かゆみ、むくみなどが起こる事があります。そのほとんどは、自然に回復します。

【重い副作用】：呼吸困難、血圧低下、ショック、意識消失、心停止などが起こる可能性があり、適切な治療が必要となります。

【遅発性副作用】：副作用の多くは、検査中に起こりますが、ごくまれに数時間～数日後に(比較的軽い場合がほとんど)起こる事があります。

## 検査後の注意点

造影剤は尿から排泄されます。(腎臓の機能が正常なら 2 時間以内に 60%が尿中に排泄され、24 時間後には 90%以上が尿中に排泄されます)注射した造影剤を速やかに排泄させる為に、検査終了後は水分を多めにお摂り下さい。水分制限がある方は、主治医にご相談下さい。

以前に、造影剤を使用した検査で副作用が起こらなかった方でも、今回の検査で副作用が起こる事があります。副作用が起こった場合には、迅速かつ適切に対応致します。ご理解頂き十分に納得された上で、造影 MRI 検査を受けて頂きますようお願い致します。

医療法人社団 綾和会 浜松南病院 Tel:053-443-2111

H27.12.1 改訂